

京都大学文学部卒業生アンケート集計結果

令和4年3月実施

京都大学文学部・文学研究科では、卒業時・修了時にアンケートを実施し、教育研究活動の自己点検・評価に役立てるとともに、その集計結果を公開しています。卒業生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

【結果の概評】

以下、結果の概評に移る。なお、一部項目の結果については2019年度から今年度にかけての推移を示している。その際、括弧内に「〈2019年度の数字〉→〈2020年度の数字〉→〈今年度の数字〉」という形式で記載した。また、選択肢「A」を最高評価として満足度や達成度を問う項目について講評する場合、「A」「B」という上位2つの回答を合わせて〈肯定的な回答〉とみなしている。

今年度は卒業生236名に対して197名の回答を得た。回答率は83.5%と高い数値を示しており、昨年の一時的な落ち込みから、一昨年のレベルへと回復している(80.4%→62.8%→83.5%)。

内容を見ると、文学部の授業、そして文学部での学業を経て得た知識、技能については例年通り、一般に高い評価を得ていることがわかる。今年度の卒業生は、専修への分属後ほとんどの期間を新型コロナウイルスの流行下で過ごしており、通常の対面形式の授業を受ける機会は非常に限られていたが、教員の工夫、努力により授業の質が担保された結果の数字と見ることができるだろう。

個別の項目について見て行こう。Q.1はオープンキャンパスへの参加経験を問うものだが、今年度の卒業生は、参加者が非参加者を10ポイント上回っている(参加者割合：50.6%→49%→54.8%)。

次に、文学部の授業が「自学自習」の基本理念を実践するものであったかを問うQ.2では肯定的な回答が73.1%(69.6%→72.3%→73.1%)、文学部での学習の満足度を問うQ.3では肯定的な回答が87.3%(80.3%→90.3%→87.3%)と、一昨年、昨年に続きいずれも高い評価が示された。ただし、「自学自習」については、後述するように自由記述欄で厳しい意見も述べられている。

卒業後の進路を問うQ.4では、「大学院進学」の選択者が大幅に増えて35%となった(27.4%→23.9%→35%)。大学院進学者の増加自体は喜ばしいことであるが、これが経済の回復により学費捻出が可能になった結果なのか、ぎゃくに経済の停滞により一般企業への就職が困難となった結果なのか、今後の見極めが必要であろう。

文学部で学習したもののうち、今後役立つと考えられるものを選択させるQ.5ではほぼ例年と同様の結果が得られたが、このうち「自分で問題を発見し、解決を図る能力」の回答率が着実に増加傾向にあることが注目される(53.6%→58.1%→66.5%)。じつは、後述する

DPの達成度合いを問う Q.7 から Q.10 の中で、肯定的な回答が最も多かったのは、問題発見、解決力の獲得に関連する Q.8 である。実際にその能力が獲得されたかはさておき、現在の学生が「問題発見、解決能力」というキーワードを重視していることはたしかだろう。

先に述べたように、Q.7~10 は DP の達成度合いを問う項目である。いずれも肯定的な回答が6割を超えたが、上記の通り Q.8 のみ7割を超えている (62.5%→74.8%→73.1%)。また、Q.11~15 は全学共通科目における達成度を問う項目である。概して高い評価が示されるが、このうち英語能力の向上度合いを問う Q.13 のみ肯定的な回答の率が低く、しかも、一昨年、昨年と比べてもその率は低下傾向にある (53.5%→51%→45.7%)。会話、読解、作文など、英語力のうち、どの部分が向上していないと学生が認識しているかも含め、調査、改善の余地があるだろう。

【自由記述欄】

上述の「自学自習」の評価と直接関連するが、文学部の「自由」な風土に愛着を持ち、その維持を切望する意見がある一方で、「自学自習」という理念が教員に都合よく解釈されているとの批判的意見も見られた。

以下、一部固有名詞が記載されている箇所を除き、自由記述欄の内容をほぼそのまま共有する。

- ・ 「論文の書き方」教育の不足
- ・ 自学自習の基礎的能力を育む方法的教育が欠如している。
- ・ 必修科目として、論文の書き方 (=研究の方法) について教科書を用いて解説し、実際に何らかのテーマについて論文を執筆・修正させ、十分なフィードバックを複数回行う授業が不可欠である。これは学生個人の熱意の不足に帰すべき問題ではなく、入学後何らの基礎的訓練を課されることなく、(また教員の能動的で綿密な研究指導に浴することなく、加えて学習成果に対する評価も十分になされず極めて甘い単位認定により能力不足が素通りされ)、ただ単に「自学自習」の美名のもとで放任されていた環境にこそ責任がある構造的問題である。欧米の大学のように全授業で膨大な課題が出され、自学自習の余地が狭められる状況は肯定しないが、せめて自学自習の基礎となる方法的教育は十分に与えなければ、学部で何らの成果も得られない学生は今後も増え続けるだろう。
- ・ 今の状況では、文学部は「自学自習」や「自由の校風」を生徒に押しつけているという気がしてなりません。何というか、ロクに教えもしないのに、生徒が持ってきたものに対して、後出しじゃんけんに「これは違う」とか「常識はこうだ」と言っている感じです。もちろん、文学部はそういうところだと言われればそこまでですし、そういった事情をわかったうえで入学しないといけないということも理解しています。ですが、このやり方だと結局学生間でかなり差がつくし、今は天才が一人生まれれば良いと言っている時代ではないと思います。それに「自学自習」は、生徒が自分で言うなら良

いですが、先生側が言うことではないのではないのでしょうか。院生や学生間で学べと言われても、コロナで通常の生活が崩壊した世代にとって、それはかなり無茶な要求です。

- ・色々ありましたが、ここに来なければ批判的精神や思考力を得ることが出来なかったと思います。お世話になりました。
- ・研究テーマ、物の考え方の自由度が高い、と言えるだろう。指針が見えないという不安もあったが、それを凌駕する自主性が認められている。与えられた枠の中で、自由に思考することは大事だが、それ以前に枠を与える者が自分であることを考えさせられる教育方針と感じた。とても良いと思う。
- ・授業は無理に15回行わない方が学習しやすいのに、と思うことがあった。GPA制度やキャップ制の導入は特に学習効果を向上させているとは思えない。勉強したい人は時間が欲しい。授業に出ることだけが学習ではないと学べたのが京大での学部生活での良いところだったが、そこは年々削られて行っている感覚がある。立て看板の規制とか寮への強圧的な対応とかも含めて、自由な雰囲気失われつつあるように感じる。学生の自主性をもっと信じて尊重する大学であって欲しい。
- ・（当局について）学生にも関わる様々な問題について、トップダウンで突然の告知がなされることが多く、学生側の意見を聞き、調整する姿勢が全く感じられない。
- ・「自由の学風」が文学部においてこれからも維持されることを願っています。
- ・京都大学で過ごした4年間はとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・施設について、今後改修など行われる際に、小さな教室でも、ぜひ黒板は最低2枚ずつつけるようにして頂きたいです。
- ・社会全体の流れもありしかたない面はあるとは言え、授業の履修制限や出席の管理など、全体的に自由が圧迫されてきているように感じます。今後も京都大学が自由の学風を持ち続けることを願います。
- ・1回生時のガイダンスで分からないことがあったら何でも聞いていいと聞いたが、実際に文学部の教務に4年間を見据えた授業の選択の仕方について相談に行った際に、それは自分で考えるべきと追い返され困惑した。今思い返すと、自分が高校生までのすべて教えてもらうという姿勢のままだったのも問題だったと思うが、せめて自分で考えるための素材を得るためにはどうすればいいかを教えてもらいたかった。
- ・3回生からオンライン授業だったこともあり、担当教授や専修の先輩と関わる機会が少なく、卒業論文執筆の際に何を聞いてもいいのかわからず1人で進めたのが不安だった。
- ・個人的に、専修選択が2回生の秋ではなく冬（できれば年明け以降）であれば良かった、と思っております。というのも、2回生前期までは配当の専門科目も少なく、各授業に真面目に取り組んだ場合、全学共通科目（特に外国語科目）の履修で精一杯となるからです。シラバスや専修紹介などでの「公式見解」と実情が大きく異なる場合もあるので、特に大学院進学希望者にとっては、誠実かつ有意義な選択を行うためには、せめ

て夏休み前後にガイダンス等に参加した上で、2回生後期に希望専修の授業等を受講しながら進路を考える時間を取ることが望ましいのではないか、と思いました。私自身の例はやや特殊ですが、2回生前期まではE2授業を集中して受講しており、今の指導教員の授業を2回生後期になって初めて受講して感銘を受け、結果的に3回生になる時点で早くも転専修を希望することになりました(3回生の間は実質的に転専修先の専修に所属しておりました)。実際は教務の方の負担が重くなりすぎるなど、制度実施上の不便があって現状のような体制になっているのだらうと推察しておりますが、もし可能であれば、専修選択のあり方を今一度検討していただければ幸いです。

- ・ 大学院入学を2月にするのは、袴の準備やダメだった場合の就活への切り替えなどが難しいため、心理的に非常に辛かったです。
- ・ 先生方が事務的なことに忙殺されておりあまり一対一での対話などができなかった。
- ・ 取得済み単位数と受講済み授業の一覧、および卒業までに必要な残りの単位(全学共通科目、外国語、専門科目(演習、実習、特殊講義などの別も含む))について、クラスで常に把握し、時間割表の下にも常に表示されているほうがありがたい。
- ・ KULINE の利用にあたり、特に雑誌を中心に完全一致検索が欲しい。普遍的な語をタイトルとする雑誌(「日本」「歴史」など)は極めて探しにくい。雑誌一覧も単純な五十音順であり、これも検索は大変手間である。改善を希望する。
- ・ 自分が在学した数年間でさえ「自由の学風」の劣化をありありと感じた。
- ・ 文学部図書館の年配スタッフが常にイライラしている。何もしていないのに勝手に怒られるのは不快なので改善望む廊下が寒くて暗い。勉強する環境ではない
- ・ 学生が使える電子レンジを設置してほしい
- ・ 文学部から公認心理師になるルートが早く確立されますように。後輩がむやみに苦労しませんように。
- ・ 成績確認の際、担当教官から抗議が認められなかった場合に、上訴できる手段を作ってほしいと思います。自分の評価を盲信し、そのために自ら行ったはずの授業内容まで捻じ曲げる非常勤講師がいたため、不利益を被ったので、後輩たちのためにぜひお願いしたいです。
- ・ 成績は開示期間以外でも確認できるようにしていただきたいです。

アンケート名 令和3（2021）年度卒業生アンケート

部局 文学部

対象者数 236

回答者数 197

回答率 83.5

結果 (Q.01) あなたは入学前に京都大学オープンキャンパスに参加しましたか？

A: はい (108票/54.8%)

B: いいえ (86票/43.7%)

C: 無回答 (3票/1.5%)



(Q.02) 京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学部での授業について、自学自習の能力が養われるような形で行われていると思いますか？

A: 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている (53票/26.9%)

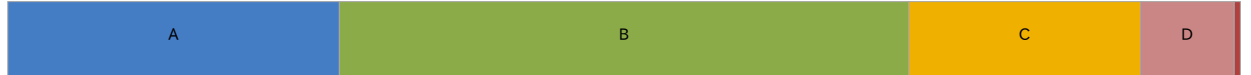
B: 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている (91票/46.2%)

C: どちらとも言えない (37票/18.8%)

D: 自学自習の能力が養われるような形で行われていない (15票/7.6%)

E: その他 (1票/0.5%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) あなたは文学部（特に所属専修）で学んだことに満足していますか？

A: 十分に満足している (75票/38.1%)

B: それなりに満足している (97票/49.2%)

C: どちらとも言えない (19票/9.6%)

D: 後悔している (5票/2.5%)

E: その他 (1票/0.5%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 4月以降の進路についてお聞きします。

A: 大学院進学（他大学も含む） (69票/35%)

B: 一般企業に就職 (87票/44.2%)

C: 官庁、地方自治体等に就職 (14票/7.1%)

D: 教員、司書等の専門職に就職 (7票/3.6%)

E: その他 (1票/0.5%)

F: 無回答 (19票/9.6%)



(Q.05) 文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものはありますか？（複数回答可）

A: 専門的知識 (93票/47.2%)

B: 専門分野の研究能力 (78票/39.6%)

C: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (131票/66.5%)

D: 一般的な教養 (128票/65%)

E: 国際感覚 (19票/9.6%)

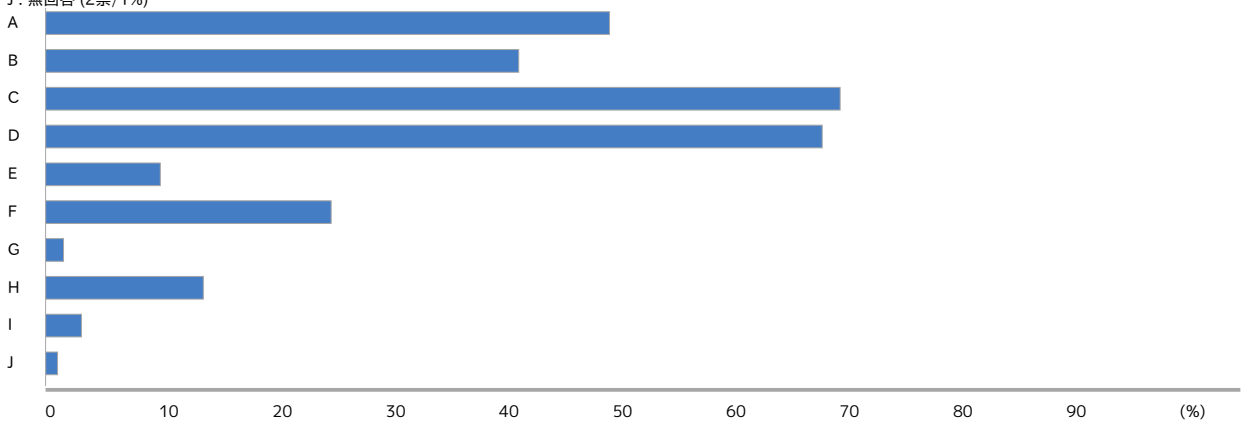
F: 外国語の能力 (47票/23.9%)

G: リーダーシップ (3票/1.5%)

H: 社会的常識 (26票/13.2%)

I: その他 (6票/3%)

J: 無回答 (2票/1%)



(Q.06) 差し支えなければ、あなたが所属していた系を教えてください。

- A: 哲学基礎文化学系 (36票/18.3%)
- B: 東洋文化学系 (21票/10.7%)
- C: 西洋文化学系 (16票/8.1%)
- D: 歴史基礎文化学系 (51票/25.9%)
- E: 行動・環境文化学系 (51票/25.9%)
- F: 基礎現代文化学系 (18票/9.1%)
- G: 無回答 (4票/2%)



(Q.07) 以下、Q.07からQ.10で、文学部のディプロマポリシーに関してお伺いします。以下の項目についてどの程度達成できたか教えてください。

人文学に関わる基礎的学識を有し、その専門領域としての哲学・歴史学・文学・行動科学について深い理解力を持ち、また学修成果を卒業論文として集大成できる問題探求能力、分析能力、表現能力を身につけている。

- A: 達成できた (27票/13.7%)
- B: ある程度達成できた (102票/51.8%)
- C: どちらとも言えない (42票/21.3%)
- D: あまり達成できなかった (16票/8.1%)
- E: 達成できなかった (8票/4.1%)
- F: 無回答 (2票/1%)



(Q.08) 人文学に関わる課題について、問題を発見し解決する力具备、創造的に取り組むことができる。

- A: 達成できた (37票/18.8%)
- B: ある程度達成できた (107票/54.3%)
- C: どちらとも言えない (27票/13.7%)
- D: あまり達成できなかった (18票/9.1%)
- E: 達成できなかった (6票/3%)
- F: 無回答 (2票/1%)



(Q.09) 人文学の意義と重要性を理解し、高い倫理性をもって、その発展に貢献することができる。

- A: 達成できた (35票/17.8%)
- B: ある程度達成できた (96票/48.7%)
- C: どちらとも言えない (45票/22.8%)
- D: あまり達成できなかった (10票/5.1%)
- E: 達成できなかった (9票/4.6%)
- F: 無回答 (2票/1%)



(Q.10) 自由で批判的な精神と良識を具備、人類が直面する課題を直視し、問題の解決に積極的に寄与することができる。

- A: 達成できた (29票/14.7%)
- B: ある程度達成できた (95票/48.2%)
- C: どちらとも言えない (53票/26.9%)
- D: あまり達成できなかった (13票/6.6%)
- E: 達成できなかった (5票/2.5%)
- F: 無回答 (2票/1%)



(Q.11) 以下、Q.11からQ.15で、全学共通科目の学習に関してお伺いします。入学当初と比べ、以下の項目はどの程度向上した又は得られたと思いますか。(一つ選択。無回答も許可する。)

専門以外の幅広い知識・教養

- A: 大いに向上した (49票/24.9%)
- B: ある程度向上した (119票/60.4%)
- C: あまり向上しなかった (24票/12.2%)
- D: 全く向上しなかった (2票/1%)
- E: 無回答 (3票/1.5%)



- (Q.12) 専門分野で基礎となる学力
A: 大いに向上した (47票/23.9%)
B: ある程度向上した (119票/60.4%)
C: あまり向上しなかった (26票/13.2%)
D: 全く向上しなかった (3票/1.5%)
E: 無回答 (2票/1%)



- (Q.13) 英語の能力 (英語以外の言語を第1外国語とした方は、その言語の能力)
A: 大いに向上した (14票/7.1%)
B: ある程度向上した (76票/38.6%)
C: あまり向上しなかった (78票/39.6%)
D: 全く向上しなかった (27票/13.7%)
E: 無回答 (2票/1%)



- (Q.14) 初修外国語の能力
A: 大いに向上した (37票/18.8%)
B: ある程度向上した (93票/47.2%)
C: あまり向上しなかった (45票/22.8%)
D: 全く向上しなかった (19票/9.6%)
E: 初修外国語は修得しなかった (1票/0.5%)
F: 無回答 (2票/1%)



- (Q.15) 将来の研究分野や進路を決める手がかり
A: 大いに得られた (27票/13.7%)
B: ある程度得られた (110票/55.8%)
C: あまり得られなかった (44票/22.3%)
D: 全く得られなかった (14票/7.1%)
E: 無回答 (2票/1%)

